

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】令和 1 年 12 月 26 日 (2019.12.26)

【公表番号】特表 2017-528553 (P2017-528553A)

【公表日】平成 29 年 9 月 28 日 (2017.9.28)

【年通号数】公開・登録公報 2017-037

【出願番号】特願 2017-503526 (P2017-503526)

【国際特許分類】

C 0 9 J 175/08 (2006.01)

C 0 8 G 18/10 (2006.01)

C 0 8 G 18/48 (2006.01)

C 0 8 G 18/73 (2006.01)

C 0 9 J 11/04 (2006.01)

【F I】

C 0 9 J 175/08

C 0 8 G 18/10

C 0 8 G 18/48 0 5 4

C 0 8 G 18/73

C 0 9 J 11/04

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 1 年 11 月 7 日 (2019.11.7)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

イソシアナート末端プレポリマーを含有する一液型構造用接着剤であって、前記プレポリマーは、(a) 前記プレポリマーの重量に基づき 40～95 重量%のポリテトラメチレンエーテルグリコール、および (b) 前記プレポリマーの重量に基づき 5～60 重量%のヘキサメチレンジイソシアナートを、(c) ジルコニウム触媒とともに反応させることにより重合され、

前記プレポリマー中の前記ジルコニウム触媒の量は、前記プレポリマーの重量に基づき 0.02～0.08 重量%である、前記一液型構造用接着剤。

【請求項 2】

前記ポリテトラメチレンエーテルグリコールが、500～3000 の Mn を有する、請求項 1 に記載の一液型構造用接着剤。

【請求項 3】

55～90 重量%の前記ポリテトラメチレンエーテルグリコール、及び (b) 10～45 重量%の前記ヘキサメチレンジイソシアナートを含み、請求項 2 に記載の一液型構造用接着剤。

【請求項 4】

繊維強化プラスチックから作製された、コーティングされた部分または塗装された部分を接着する方法であって、請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載のイソシアナート末端プレポリマーを含有する一液型構造用接着剤を、前記部分に塗布することを含む、前記方法。

【請求項 5】

前記繊維強化プラスチックがエポキシ樹脂を含む、請求項 4 に記載の方法。

【請求項 6】

前記接着剤が、前記接着剤の重量に基づき 7 ～ 40 重量 % のカーボンブラックをさらに含有する、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】

前記接着剤が、前記接着剤の重量に基づき 9 ～ 40 重量 % のカオリンをさらに含有する、請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の一液型構造用接着剤。

【請求項 8】

前記ジルコニウム触媒が、ジルコニウムアセチルアセトナートである、請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の一液型構造用接着剤。

【請求項 9】

前記接着剤が可塑剤を含有しない、請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の一液型構造用接着剤。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0027

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0027】

プレポリマーの結果

表 5 は、プレポリマー自体の試験データを示す。MDI よりも HDI を使用したプレポリマーは他の製剤と比較して有意な粘性の低下を示し、ゆえに、当該プレポリマーは、当該プレポリマーまたは接着性剤のいずれかに対し可塑剤を加えることなく使用することができる。